

第25回柏崎市学区等審議会 概要報告

1 日 時 令和5年（2023年）9月28日（木）午後6時35分～午後8時17分

2 会 場 柏崎市役所1階 多目的室

3 出席者

- (1) 委員 16名 阿部会長、徳永副会長、池嶋委員、大谷委員、片山委員、北村委員、小林（眞）委員、関矢委員、遠山委員、富川委員、中村（豊）委員、中村（義）委員、宮坂委員、矢代委員、山田委員、吉田委員
- (2) 事務局 6名 宮崎教育部長、田辺教育総務課長、矢沢学校教育課長、山之内学校教育課主幹、伊比教育総務課課長代理、茨城主査
- (3) 傍聴者 4名
- (4) 報道 3名

4 都合により欠席した委員 4名 五十嵐委員、小林（美）委員、拝野委員、井比委員

5 会議概要

- (1) 開会 阿部会長
- (2) 審議事項
- ① 2件の統合の是非、方向性について意見交換
- (3) その他
- ① 次回審議会の日程について
- ② その他
- (4) 閉会 徳永副会長

質疑・応答

発言者	発言概要
-----	------

【開会あいさつ】

会 長 : 私達は、昨年年第1次答申文の中で、どういう基本姿勢で審議をしたかということも4点挙げた。1点目は「児童生徒の望ましい教育環境を第一に考えた」、2点目は「公平な視点で客観的に判断した」、3点目は「統合検討対象校の現状だけでなく、中・長期的なことも視野に入れた」、4点目は「答申は委員の全員一致を原則とした」。この四つである。言うまでもなく、これらの基本姿勢は、2年目の今年も変わるものではない。現在審議している2件の学校統合案については、審議会としての考え方を集約、整理する段階に入ってきたが、改めて4点の基本姿勢を確認し、皆さんと力を合わせて、これからの最終の審議に臨んでいきたい。

本日は、10月に五つの地区で行う学区等審議会主催の意見交換会に向け、審議の途中経過、現時点での審議会の方向性を示すための意見取りまとめを行う。

【審議事項】

- 会 長 : 本日の審議の進め方だが、前半は、これまでのグループ討議やその後の各委員の考え方の整理などを踏まえ、2件の統合の是非について自由に意見を出してもらいたい。1件ずつ順番に行く。その後、10分から15分程度の休憩を取る。この間に意見の取りまとめ方を正副会長で協議する。
- 後半は、2件の統合案に対する審議会の方向性として、現時点での考え方を整理する。一定の方向性を取りまとめたいが、もちろん最終的な結論ではない。結論は、今後の意見交換会や審議を経て決定することになる。
- また、これは以前にも申し上げたが、方向性を一本化できない場合、また意見の対立を今の段階で解消できない場合は、今回無理に一致させることはせず、そのままの状況を意見交換会に示したいと思っている。時間配分は前半の議論の状況を見て決めたい。
- それでは前半の自由討議に移る。配ってある「市立小学校の統合について」は意見交換会で配布する資料である。グループ討議での各グループの意見を取りまとめた形で載せているが、これを一本化する。これらを踏まえ、2件の統合の是非について皆さんから意見をいただきたい。
- 委 員 : 鯨波小学校PTA主催の意見交換会に参加して、鯨波小は、まだまだ地域や保護者の意見を聞く必要があると感じた。
- 委 員 : 剣野小の学校見学会に参加した感想を伝える。
- 私以外に地域の人が6名参加していた。鯨波小の保護者や地域の人、入学予定で検討中の人である。
- 私がいろんな学校を見学してきた中で、剣野小も普通の学校であった。特別狭いところで授業をしているわけでもなく、学校が都会的で緑がないこともなく、先生方が機械的に教え子ども達が黙々と学んでいるという感じもなく、本当に子ども達が伸び伸びとし、ビオトープだとか、外で遊ぶ場所もきちんと確保されていた。その場所は地域の人々が整備したということであり、地域との関わりもできている。
- 校長に、今後、地域の学習、海を使った学習をする考えがあるか尋ねたら、「自分もそういうものがすごく大事だと感じており、実際に保護者や地域の協力を得るために、今年の遠足から保護者ボランティアを募集してみたら手を挙げてくれる人がいた。これらを足がかりに地域学習にも力を入れていきたい」という話があった。
- ただ、教室は、ここに鯨波小と米山小の児童が入ったら手狭だと感じたが、「これは学校が努力してできるものではないので、教育委員会に何とかしてもらおう要望を出すしかない」と言っていた。
- そういう意味では少し手狭な感じはしたが、あとは普通で先生方の教え方も熱心だったし、子ども達もしっかり授業を聞いていて、走り回って場を乱すような子どもはいなかった。本当に普通の学校であった。
- 委 員 : 9月19日の鯨波小のPTAとの意見交換会の感想である。
- 教育環境について、発言された人は、鯨波小が剣野小と統合した環境よりも今の環境が良いと思っている人がほとんどであった。
- それは学校を残すということとは違い、教育環境としてどちらが良いかという視点で発言され、それが適正規模でなく、今の環境が逆に小規模校の方が優れているという言い方をされた人が多かったと感じた。
- 教育環境が優れているかというところでの市の考えや私達が今まで議論してきた考え方と、鯨波小の保護者の考えは少し違うところがあると感じた。どちらが良いのかは分からない。
- 委 員 : 新潟日報に高柳小学校について記事が載っていた。学校が閉校すると、子育てインフラがなくなるので、子育て世代や移住者から選ばれない地域になる。統廃合する場合はその地域のまちづくりのビジョンが必要だ、それがなければただの切り捨てになる、という意見を述べていた人がいた。その通りだと思う。私の立場、社会教育の地域作りという立場で考えると、非常に核心を突いている。

それから、柏崎市は五つの郷に分かれているが、このまま統合していくとビジョンがないままである。少人数になったらくっつけていくと、本当に中央に学校が集まる。そうすると、今、どのようなまちづくりを市がしているのか、郷の発展をどうしていくのかということも考えていかないと本当はいけないと最近考えている。

早急に統廃合をする必要があるのかという思いが生じ、今の教育を続け、ビジョンをきちんとしてから統廃合に踏み切ってもいいのではないかとこの考え方に、少しだけ変わってきたところがある。

委員： 今回の剣野小の見学会には、すごく少ない人しか参加しなかった。地元の人、剣野小と統合するかも知れないという中で、大規模校というのはどんな学校なのか、家庭から2人や3人で参加しなくても、例えば仲の良いママ友たちの中で1人とか、地域から1人みみたいな感じで参加をして、様子を周りに広めてもらえると良かったと思う。

大規模校だけが素晴らしいのかといたら、そうでない教育環境があってもしかるべきと思う。100%大規模校で子ども達が素晴らしい育成ができるとも思えないところもある。

これだけ地元で反対意見があるということは、統合計画そのものが早急すぎ、地元の理解を得られていない表れだと思う。それに巻き込まれている子ども達や保護者には本当に申し訳ないと思う。

統合計画はこれからも続いていくので、地元に行くだけでも説明に行きますというスタンスではなく、教育委員会から地元に行き、今後こういう予定でいきますので皆さんのご意見を聞かせくださいというように寄っていかないと、地元の理解、統合に舵を切ることにはならないと思う。

意見交換がこれからもあるが、皆さんの意見を聞くだけでなく、答える材料を教育委員会から用意してもらいたい。

統合準備委員会の進め方も、「校名から校章まで全部変わります」と言い、「結局は変わりません」でもいいと思うのではなく、「変わります」と発言をしないと、やっぱり当事者意識は生まれえないと思う。

寄り添うのであったら、向こうがきっかけではなく、こっち側から歩み寄っていく、お願いする立場であるので、頭を下げてお願いしますになるべきだと思う。

委員： 同じ職場の鯨波小の保護者に実際の様子を聞いたところ、強く反対されている人はいるが、子どものことを考えれば、統合となればそれで良いし、残せてもらえるのであれば、それはそれで有難いという中立的な意見の保護者の人が多いと聞いた。

その家庭は、子どもがミニバスの関係で剣野小に行っているんで交流はあるし、自分としても子どもは大勢の中で育てたいという思いがあり統合には賛成だが、一番の心配は、意見交換会に行ったときに、反対意見の方が強くなると中立的な立場の方が発言しにくくなり、言いたくても、圧に負けてしまい、話せない部分がいっぱいあることだと言っていた。

また、今後の親同士の関係性とかも崩れるのではないかと心配する声もあった。

賛成でも反対でも自由に意見を出せるような意見交換会ができるように何か工夫し、今からできることがあれば考えながら会議を進めてあげたい。意見交換会は貴重な時間だと思うので、親の思いを少しは汲み取ってあげても良いと思う。

委員： 全く同じ意見で、9月16日に鯨波コミセンに行ったときは、統合に反対する意見がほとんどで、あの中で「私は賛成します」とかは言いづらかったと思う。賛成する人たちが、実際には地域の中ではどれぐらいいるのかが分からないということであり、いろんな人の意見は出なかった、反対意見が多くて出せる状況ではないと感じた。

委員： 例えば、賛成と反対の人の部屋を分けて、2階の和室とホールに会場を分けて、顔を合わせないやり方かどうか。絶対、あの環境では発言ができ

- ないと思う。
- 委員： 高柳もそうだったが、人数が少ないから、誰々さんは反対の方に行ったとか、誰々さんは賛成の方に行ったとなると、今後の近所付き合いや一保護者付き合いなど人間関係に影響する。
- あえて賛成意見を聞く時間帯、反対意見を聞く時間帯など、意見を聞く時間を同じ会場の中で分けることも方法の一つである。部屋を完全に分けると、今後に影響するのでやめた方がよい。
- 会長： 部屋を分けても時間を分けても、狭い地域だと結局同じことだと思う。
- 大きな集会形式の意見交換会は、そういう弊害があるので、昨年から個別の少人数の意見交換を行ってきた。
- 高柳小の場合は、反対が多い中で賛成の意見もあったりして良かったと思う。鯨波小も賛成という人もいた。6人の参加があり、4人が反対、2人が賛成であった。そういう意味では、多少、両方の意見を聞けたと思っている。しかし、集会形式の場合は、どんなに工夫しても私は難しいと思うので、そういうものだと覚悟してやるしかない。
- ちなみに、鯨波小の地域の人との意見交換は賛否両論だった。賛成の人もいたし、反対する人や中立の人もいたという状況だった。
- 保護者の場合は、反対の人が率先して参加するということが個別の意見交換会の時からの状況だったため、賛成の人は状況を予想しているのか、ほとんど来ない。その壁を突破するのは難しいと思う。
- 委員： いずれにしろ、絶対に全員が賛成ということもないと思う。反対もいるし、賛成もいる。審議会として結論を出す時期に近づいてきていると思う。
- 審議会として賛成・反対のどちらになるか分からないが、どちらかに決めなければいけない。例えば、統合となった場合、まだ2年近くあるので教育委員会が話し合いの場を設け、一つ一つ解決するしかないと思っている。
- 冒頭にビジョンということが出たが、教育委員会は教育ビジョンを持っているか聞きたい。ビジョンがあれば、それを前面に出して言うべきである。
- 事務局： 教育のビジョンということだが、ソフト面では教育大綱がある。柏崎の教育はこうあるべきであるということで大綱がある。ハード面では統合方針がある。どこまで実現できるかということもあるが、当然これからのまちづくりも含めながら検討していく必要があると考えている。
- 委員： 鯨波小の保護者から、「今週末の意見交換会のことはご存知ですか」「審議会委員に意見交換会の話が伝わっているか、私たちはとても心配している」と言われた。「教育委員会から全員に案内が届いているし、出席できる人はすると思います」と伝えたら安心していた。
- すごく不安な様子だった。その人はおそらく統合には、どちらかという反対意見と思われるが、自分たちもどうしたら良いか分からないというのが正直なところだと思う。
- 結局、中立な考え方が多いことはそういうところにあると思うが、けれども黙って教育委員会の方針通りに決まるのを待つのではなく、自分たちも何か意見を言わなくてははいけないという思いで、PTA主催の意見交換会を教育委員会に依頼したという。意見交換会は何回かあるが、参加者も同じだったりして、毎回同じような意見も確かに出てくる。反対の意見が多いこともそうだが、何回かのうち、その時だけ初めて出る人がいるかも知れないと考えると、私たちは何回も何回も同じ話を聞くかも知れないが、毎回できる限り、きちんと参加し、一人一人の意見を真摯に聞かなくてははいけないと思った。
- 結局、その方は参加していなかったが、審議会委員も大勢が参加していたし、そういう姿勢をPTAや地域の方に見せることも大事であると思った。
- 会長： 少し鯨波小に議論が偏っている。中通小と日吉小、それから剣野小と米山小の統合についての意見を出してほしい。
- 委員： 米山小は、統合案が出るのが遅すぎるという意見がほとんどであり、また、早くやってほしいという意見が多かった。

中通小は、通学路の問題や地域作りが弱くなるような意見があったが、私は、仕方ないという受け止める方が多かったと思う。物理的な意見があったが、やむを得ないと考えているように感じた。

剣野小と日吉小は、大勢になるのだから良いという感じは相変わらず受けた。

委員： 私は、今のところ受け入れ先を剣野小にするか大洲小にするか決めかねている状況である。統合自体は良いと思っている。

剣野小に反対というよりは、賛成に行ききれないところがある。学校の人数的なバランスを考えても、大洲小が良いのかなということは、最初からあった。大洲小と統合しても令和11年で86人ぐらいは残る。少なくとも10年ぐらいは残るのかなということ、それをすればあの地域で大洲小と剣野小という2校を残す道が残るということもあって、今もその可能性を捨てきれない。

元々の教育委員会の説明では、バスの乗り入れが難しいということだった。確かに道が細いので、そこがネックになると思うが、例えば周辺の近くにバスを停めて、そこから少し歩く方法はとれないのか。その可能性が交通の便や子ども達の安全というところで、本当にできないのかというところが、私の中では、まだはっきりしていない。

今回、統合案から外れているので、大洲小の意見を聞く機会が全くなかったということがある。何となく私の中で審議が十分にできていないので剣野小が良いとは言い切れない。

今の私の状況としては、統合に反対はしないが、答申の意見とすると完全な賛成意見ではなく、少数意見を残すなり何なりの対応をするかなという印象があるので、一応お伝えしておく。

会長： 前半の自由討議はこれで締める。今から15分間休憩し、この間に後半の取りまとめ方について正副会長で協議する。

会長： 後半の審議に入る。正副会長で取りまとめ方を検討した。

まず、日吉小と中通小の統合は、先般のグループ討議でもすべてのグループが統合に賛成した。今日も特に異論はなかったので、中通小、日吉小の統合は、「再編方針通りの統合を妥当とする」というのを今の審議会の現時点での考え、方向性にしたい。

理由は、グループ討議のときにいろいろ上がっており、それに尽きるところ。よろしいか。

全委員： 異議なし。

会長： 続いて、剣野小、鯨波小、米山小の統合について、まず米山小については、地域内に早く統合してもらいたいという意見が強いことがある。これは無視できない。したがって、米山小は、剣野小への統合を妥当とするということで、現時点はそう考えることにしたい。統合先は後で説明する。よろしいか。

全委員： 異議なし。

会長： 鯨波小は、先般のグループ討議では、全グループとも統合に賛成であった。しかし、今日の意見を聞くと、まだ委員に迷いがある。まだ地元の理解が得られていない、地元の声をもっと聞いた方が良いという意見もあった。人数も、緊急的な少人数ではないということもある。

現時点では、審議会としては、まだ方向性は決められないということで、意見交換会に臨みたい。

統合先を大洲小という意見も一部あるということは示したい。

ただ米山小は、統合先は剣野小を望んでいるという事情がある。大洲小については、我々は地元の意見を全く聞いていない。それは諮問になかったからである。それから教育委員会が説明したいろいろな事情もある。諸々を考えると、最終的に大洲小は、今後の西部地区の小学校再編をどうするかを早急に教育委員会に検討してもらいたいという要望をつけるという形で良いと

考えるが、今後の審議の中で、皆さんの意見を聞いていきたい。

整理すると、剣野小、鯨波小、米山小の統合について、米山小は、単独であっても剣野小への統合を妥当とする。鯨波小は、地元の強い反対もあり、今の段階では、審議会としての方向性を一致できないということで意見交換会に臨みたい。よろしいか。

全 委 員 : 異議なし。

委 員 : 教育委員会の統合方針は複式学級を解消することで、統廃合を考えている。中通小も同じような人数であるのに、中通小は反対意見が少なかったから統合を進める、一方、鯨波小は地域が理解していないから統合を進めないということである。あるいは、中通小も鯨波小もすぐには小さくならないので、今のところは審議会としては、「今審議中です」という形で地域に説明していくのか、どちらか。

会 長 : 基本的には、先般のグループ討議の結果報告の理由にもあったが、審議会としては、ある程度の人数を確保するという理由がある。それが私は基本だと思う。したがって、中通小は、すでに複式学級になっているし、それは統合の理由になる。鯨波小も同じだが、ただ鯨波小の場合は、まだ、地元の理解が進んでないということがある。

副 会 長 : あともう一つ、鯨波小は今、複式学級が2学級、単独を含め4学級である。そこは中通小とは違う。中通小の場合は、複式3学級、鯨波小は複式3学級にはまだなっていない。

委 員 : 同じような人数で、1人2人で複式学級になるかならないかという違いである。

中通小の場合は、反対意見もなく、賛成意見も出なかった。市が決めたら仕方ないという感じであった。しかし、地域として一生懸命やっているところを見ると、鯨波小を審議中、中通小は統合に決めたという形で行かなくても、今、両方とも審議中という説明をしても良いと思う。

小さな学校で子ども達を大事に育て、大勢の中で揉まれることも社会的に必要なことである。地域を好きになるということは、その地域で大事に育てられた子どもの感情から生まれる。あの人数でも教育としてはやれるということに悩んでしまう。

会 長 : まだ現時点での考え方であり、結論ではなく方向性である。審議会としての全体の方向性としては、中通小、日吉小は、統合は妥当という方向性を示す。その中で、まだまだ小規模校でという意見も当然そこには書く。そういうことで良いのではないかと思う。

基本的に昨年来の審議会の考え方としては、市の再編方針の複式学級を解消していくという方向で、昨年も答申しているわけである。

したがって、中通小と日吉小は、グループ討議の結果通りで、一応方向性を示すことは良いと思う。

今の意見は、当然その他の意見の中で列举し、審議会の中にそのような意見があるということは、伝わるようにしたい。

副 会 長 : もしかすると地域からもそういう意見が出るかも知れない。「中通小は同じような学校規模の鯨波小と扱いが違うのは何故か」というような意見が出て、審議会の考え方が問われる可能性がある。

委 員 : こだわって申し訳ないが、私も剣野小、鯨波小、米山小の統合については、あやふやである。諮問に大洲小学校が入っていないということは承知している。その理由として、冬期間の周辺道路の問題を勘案していることも聞いている。複式学級にならない理由もあると思うが、これが非常に弱い。ただ道路環境が悪いから、今回入っていないというのは非常に弱いと思っている。

米山小の地域の方は早く統合してほしいという話がある。そこの考えをどうするかは浮かんでない。令和8年度を目標にして審議しているが、例えば、もう一度、大洲小学校を含めて検討してはどうか。そうすると12月末までには、8年度という答申にはならないと思う。1年延ばして、9年度に

大洲小学校を含めた3校統合案を審議会として出してはどうかと正直思っている。そうすると、米山小では、地域の方は早く統合してほしいという意見があるから、そこをどうするかは悩んでいる。

将来、また大洲小が出てくる。5年後になるか、10年後になるかも知れない。そこをやっぱり考えないといけない。私自身もそうだが、行政ありきの考え方、その場限りの考え方かと思う。私自身も剣野小との統合が良いのかどうかというものがある。

会長：この問題は、ここで結論を出す問題ではないし、そういう声が審議会の中にあるということは意見交換会で伝え、また、その中で地元の声を聞いて、さらに最終的に答申の審議段階で、議論したい。しかし、私の考えは先ほど申し上げたとおりである。

委員：補足だが、米山小の保護者の考えは、大洲小という話が出たとき、ゆっくりしていると統合もできない。仮に大洲小であったとしても大洲小が剣野小と統合になる可能性が考えられるため、もう待ってられない。鯨波小を考えずに、本当は気遣いがあるが、米山小は早く剣野小と統合したいという希望が大勢であった。

委員：会長が説明した鯨波小の方向性は決められないという説明は、良い案だと思う。組み合わせは、今の組み合わせの剣野小、米山小、鯨波小の3校が一番良いと思う。

今これだけ保護者が反対した中で統合すると、統合した後に剣野小が混乱する心配もある。無理にそのまま進むと、鯨波小の保護者のしこりが残る気がする。今回は見送り、時間を置いた方が良いのか、それとも今統合した方が良いのか、私自身は迷っている。

よって、方向性は決められないという形で説明した方が良いと思う。そうすると、意見交換会のときに賛成の人の発言もしやすくなると思う。

委員：鯨波小の反対意見を考慮すべきとの意見があるが、鯖石小と高柳小のときは、あまりそこが考慮されなかったと思う。その点は、鯨波小だけ反対意見を重視するみたいになってしまわないか気になっている。

会長：児童数が違う。高柳小は、全校児童が6人という状況を何とかした方が良いということで、地元の反対が多いが、我々としては結論を出した。鯨波小とは状況が違う。

委員：剣野小を見学に行ったときに教室が狭かったという話をしたが、令和8年度に統合した場合、一番多い学年は6年生の76人になる。そうすると2クラスだと38人になり、キツキツになると思う。

例えば、空き教室の利用や、1学年を3クラスにするなど、余裕のあるやり方を考えている、検討する余地があるなど、意見交換会で検討材料として提案できると良い。

会長：それについては、もし審議会が3校統合の答申をする場合に、要望の中で触れることはできるが、答申に含めるのは難しい。審議会の領域を超えている気がする。改めて考えたい。

委員：同じ程度の人数で反対意見の多さで判断を変えると、反対すれば良いという雰囲気を作ってしまうか不安である。

私は数より、1人の意見でも考慮しなければいけないと思うことがあれば、結論に影響が出ると思っている。

正直に言えば、この前の鯨波小の意見交換会は、感情的というか熱がある人が多かったが、具体的にどういう理由、こういう不利益があるという意見は出なかったと感じている。そこで、中通小と鯨波小で、意見を変えて示すことは怖い。今後の統合のことも踏まえても怖いと思う。

会長：先ほども申し上げたが、昨年来の審議会の姿勢は、基本的には複式学級の解消である。グループ討議の第3グループの報告でもあったと思うが、あれがベースにある。反対が多ければ、方針が変わるのかということだが、今私達が示すのは、まだ結論ではなく、反対意見が多いからまだ結論は出せませんという段階なので、そこは許容されると思う。

最終的に、反対が多かったから統合を見送りましたと、仮にそういうことになったとしたら、そういう問題は出てくると思うが、私自身は反対が多いからとか反対が少ないからということで考え方を変えたくはない。そうでないと、審議会自身の考え方で判断することにならない。ただ、今日の皆さんの意見を聞いていると、まだ反対が多くて、結論を出せない、ためらいがあるので、まだ今の段階では結論を出すのは早急であるということである。

反対が多いということで結論を出したわけではない。そこは理解いただきたい。

鯨波小の意見交換会の反対意見の感想は、私も少し感情的なものが多かったと思っている。私も含めて11人の委員が参加して聞いており、それが今日の議論にも影響した。したがって、早期に結論を出さない方がよいということであり、中通小と比較云々があったが、あくまでも現時点の考え方である。確かに同じ人数なのにどうしてもと言われると、今のところ鯨波小は反対意見が多いからとなる。それは全部ではないと思うが、その理由は確かにある。ただ、反対が多いから統合見送ると決めたわけではなく、反対が多いから、まだ結論を出していないということで、理解が得られると思う。

委員： 中通小と鯨波小が似ている部分があるので、まだ決めていないのであれば、合わせた方がよいし、賛成意見で一旦考えているのであれば、それを出した方がよい。また、賛成だが、意見として反対されている声も多いので決め兼ねている委員もいるとの言い方で、賛成の方で合わせるのであれば、そうした方がよい。

会長： それは文章の表現の問題だと思う。いずれにしても鯨波小は、統合は良いとか悪いとかまでは、今日の意見を聞いた感じでは言えない。グループ討議の結果報告段階では、全グループとも統合賛成だったので、統合賛成で一致できると思ったが、先般の鯨波小学校区の意見交換会が、かなりインパクトがあったと思う。それはそれで致し方ない。

先程説明した方向で示したいと思う。ただ、必ずしも反対が多いからだけではなく、例えば鯨波小の場合は、児童数の問題もあり、総合的という表現になると思うが、いずれにしても地元の理解が進んでないということもあると思う。

委員： この方針を出したあと、意見交換会は、もう1回あるか。

会長： これが最後である。

委員： 審議会として方針を出しての意見交換会はできないのか。

会長： できないというか、今のところ予定はない。

本来であれば、審議会として是か非かぐらいの結論を出した上で意見交換会に臨むことがベストであると思う。去年はそうした。ただ審議会の中で意見がまだ割れている段階で、無理に一致させるというのは良くないと思う。正直に地元へ、今、審議会はこうですと示し、改めて意見を聞く。とりあえずそれは一回で良いと思う。必要があればもう1回ということもあるかも知れないが、それは難しい気がする。

委員： 学区等審議会主催の意見交換会の際、最初は賛成だったけれども、前回の鯨波小の意見を聞いて、意見が割れたという経緯は説明するか。

会長： グループ討議で全部が賛成だったという経緯は若干触れても良いと思う。グループ討議の段階でも、小規模校のことについての意見は既に出ているので、必ずしも全委員が賛成であったというわけではないと思うが。

委員： 審議会として中間報告をするということだが、統合するか、延ばすかということに関わってくるが、30人の小規模校で、学校教育が成り立っていて、地域が教育に熱心であれば、30人でも大丈夫だと思う。地域の教育をもう少し考え、地域が教育し、子ども達を育てていく力があるなら、地域に任せてもいいのではないかと、という考えもある。

どうしても大きな学校にするというのは、複式学級を解消したいということとは分かるが、高柳みたいに学年1人だとか、全校児童が6人しかいないとなれば、地域もやむを得ないと思うだろうが、まだ30人ぐらいで地域がこ

れから地域の教育力を高めてくるということになれば、そういう方向を目に入れながら統廃合を検討していったら良いと思う。私達も意見を出していくべきという考えが私はある。

複式学級や人数だけではなく、その地域の子どもを育てていく教育としては何が一番良いのか、どういう方法が良いのかということを考えていきたい。だから反対・賛成という鯨波小の保護者の意見は、あまり私は気にしていないが、本当に鯨波小の地域を見ていくと、まだ統合しなくても子どもが育っていくと思う。中通小も今、地域作りをしている、他の学校と交流したりしているから、育っていくと感じている。

そういうところを伸ばしていけば、良い学校ができ、子ども達が育っていくという気持ちがあるので意見として発言した。

会 長 : それは中通小も同じことである。そういう意見があったことはしっかりと伝え、資料にも記載する。くどいようだが、今回示すのは、結論ではない。あくまでも、これまでの議論を整理すると今のところはこんな状況になっているということを示すものである。

したがって、本当に結論を出すのは意見交換会を行い、もう少し審議をして、それからになる。あくまでも途中経過である。

会 長 : 他になければ、先ほど説明した内容で、内部討議資料のグループの枠を外し、取りまとめて配布したい。

理由等は、若干集約整理する必要がある。例えば児童数とそれに対するグループの考え方が多いので、それをなるべく優先し、今日の意見も加えて簡潔にまとめたい。

最初の意見交換会まで1週間しかない。時間的余裕がないので、資料の整理は、正副会長に一任いただきたい。

委 員 : 6番目の要望等も、このままか。

会 長 : 整理する。

委 員 : できるだけ書いてある内容は、落とさないようにしてもらいたい。

会 長 : 承知した。

委 員 : 校名、校歌、校章は全て変えるという前提の意見があるが、この中には入れるのか。

会 長 : 要望に入りたい。

委 員 : 3班は、どれか一つは変えてもらいたいという案であった。

会 長 : それは整理する。校名・校歌・校章を全て新しいものにすることを基本とすると、この要望に入っているが、まだ答申ではなく途中経過である。

委 員 : そういう二つの意見があるというような。

会 長 : それは併記したい。それも含め、表現その他は正副会長に任せてほしい。

委 員 : 要望項目の統合準備委員会の進め方について、もしこのまま残るようであれば、その中に「統合される側の意向が反映されやすい環境を整えてもらいたい」という文言を「統合する学校それぞれの特色を引き出せるような準備委員会の進め方を検討する」という表現に変えてほしい。

会 長 : それらの意見を含め、表現を精査する。

それでは審議事項は以上とする。

【その他】

会 長 : 次回の審議会の日程について事務局の説明を求める。

事 務 局 : 次回は、10月26日(木曜日)午後6時30分から行う。

委 員 : 前回の意見交換会のときに感じたが、マイクがないと発言が聞き取れないので、意見交換会はマイクを用意してほしい。

また、発言される方が、質問なのか意見なのか、賛成の意見なのか反対の意見なのかということ、最初に言ってもらわないと、どちらの発言か分からない、理解しづらいところがある。事務局から最初に注意事項として説明してほしい。

- 会長：事務局に願います。
- 事務局：我々で、こういうふうな答え方をしてくださいと願うことになる。それは、参加者に発言の仕方を規制するのかと捉えられる可能性があり、その対応は難しい。
- 委員：今までの意見交換会のときも、まず名前と立場を言ってから発言するようお願いしていた。質問なのか意見なのか事前に言ってもらう方が発言時間も短くなるし、円滑に議事が進むと思う。
- 会長：これまでの意見交換会では、名前や所属などを言ってくださいとはお願いしたが、賛否まで言ってくださいとは言っていない。確かに立場を表明してからとなると、意見が言いにくくなると思う。
委員の趣旨は、質問なのか意見なのかをはっきりしてくださいという意味だと思うので、その程度は事務局が言っても構わない。さらに付け加えて言えば、教育委員会への質問なのか、学区等審議会への質問なのかということ言ってもらえば本当は一番助かる。昨年の意見交換会では、学区等審議会に対する質問でなく、教育委員会に対しての内容が多かった。その辺は明確にした方が良くと思うが、質問か意見か、教育委員会に聞きたいのか学区等審議会に聞きたいのか、最初に言ってくださいという程度のことは良いかなと思う。ただ、統合に賛成か反対かまで最初に表明することは、かなり縛りがあるので、やめた方が良く。
- 委員：こういう場で発言することに慣れてない人が多いと思うので、明確にこれを言おうと考えてから話し出している人は、そんなに多くないと思う。話しているうちに、これはどうかと質問する人もいる。あまりそこを縛ると、話しにくいと思う。
また、学区等審議会と教育委員会のどちらにどう聞けば良いのかも分かっていない人も多く思う。縛らない方が話しやすいと思う。
- 会長：その辺は事務局に任せたい。
- 委員：自分の意見を好きなように言ってもらった方が、気持ちがすっきりすると思う。
- 委員：これから開く会は、意見交換会であり意見拝聴会ではない。意見交換会だと地元からこれはどうなるのか、どういうふうにか考えるかなど、教育委員会に質問があった場合、教育委員会からある程度の材料を持ってきてもらい発言してもらう必要がある。
- 会長：意見交換会というのは、この段階ではもう意見拝聴会ではないということだ。それに学区等審議会として一定の方向性を持って臨むので、それは聞くだけではなく、こちら意見も述べるので、意見交換会としている。
実際問題として昨年も教育委員会への質問が多く、教育委員会から答えてもらった。それは教育委員会も承知していると思うので、問題はないと思う。

【閉会あいさつ】

- 副会長：本日は、本当に熱心なご意見をお聞かせいただき、ありがとうございました。いよいよ大詰めである。私は、前回の諮問に対する答申をまとめる難しさや困難さと違う難しさと迷いを感じ、気持ちが揺らいだ。
今日の話し合いを聞き、それぞれが同じように揺らいだ時間があったと感じた。意見交換会で今現在の考え方を示し、保護者や地域の考えを聞いて、最終的な考え方の整理をしていかなければならない。
意見交換会には、なるべく多くの委員から出席していただき、生の声を聞いて考え方の整理に力を注いでいただきたい。

以上、相違ないことを確認する。

令和5年（2023年）10月26日

会 長 阿 部 義 章

副会長 徳 永 優 子